

3 東堀河と条坊の復原

今回の調査では、東堀河とこれに交差する九条条間路および南北両側溝を検出した。そこで今回の調査結果とこれまでの京内の調査から得られた条坊関係の成果とを併せて、堀河や九条条間路の位置について若干の考察を加えてみる。

堀河に関する調査としては1975年の左京八条三坊の発掘調査があり、九坪で東堀河を検出している。このときの堀河の中心 ($X=148710$, $Y=17174.2$) と、今回検出の堀河の中心 (橋脚心を堀河心とする。 $X=149474.5$, $Y=17171.6$) を結ぶ線は測量法に定める第6座標系の方眼方位に対して北で西に $0^{\circ}11'41''$ の振れ（以下単に振れと呼ぶ）を持つ。

平城京朱雀大路と羅城門の発掘調査から求めた朱雀大路の方位は、北で西へ $0^{\circ}15'41''$ ¹振れており東堀河の方位もほぼこれに近い値を示す。

次にこの朱雀大路の振れ ($0^{\circ}15'41''$) を考慮に入れ、朱雀大路心から東堀河の中心までの実長を座標から求めると1398.744mを得る。朱雀大路心から東堀河心までは10.5町で計画されたと仮定し、その単位尺を求めると 0.296尺となる。これは後に述べる条坊の単位尺とほぼ一致する。従って、東堀河の心は九条三坊の九・十坪の中央を南北に貫流するよう計画されたことがわかる。さらに、左京八条三坊九坪で検出された堀河底と、今回の調査で得られた堀河底との比高差は1.64mを測り、両調査区間では北から南へ約500分の1で地形に沿ったゆるやかな勾配となっている。

九条条間路は幅員が溝心々で8.5~9mであった。これは左京五条四坊検出の五条条間路の幅員5.97mより広く、外京の左京五条五坊における坊間路の幅員8.0m、左京四条四坊の坊間路幅員²9.0mに近い。道路心と橋の中心はほぼ一致しており、橋は道路心に合わせ幅員の³1/3に施工したのであろう。

今回の調査で、平城京条坊の側定値に新たに九条条間路心の座標値を加えることができた。そこでこれらの側定値をもとに、改めて京造営時の単位尺を求めてみよう。ただし今回の成果が条間路心の検出であるので、本節では条坊の南北距離のみをとりあげた。

表3は、今回を含めこれまでの調査による道路・側溝の座標値、および従来の値と今回の値との差を座標上に求め、それを計画尺で除した数値である。ここでは京造営時の方位の振れを先に述べた $0^{\circ}15'41''$ とし、条坊が規則正しく直交するという前提で計算を進めた。また条坊の設定は一区画1800尺の方眼を東西・南北に四等分して大路・条間路・小路を割りつけているため、道路心を検出している場合には問題ないが、どちらか一方の側溝のみを検出している場合、造営尺を求めるには各々の道路幅が必要になる。ここでは大路を8丈・6丈、条間路を3丈、小路を2丈とした。

以上によって得られた単位尺はほぼ0.295から0.296の間におさまる。ただその範囲内で若干のバラツキがある。それにはいくつかの理由が考えられるが、そのうち条坊が正しく直交するという前提に問題があり、実際の条坊が東西・南北に若干の振れをもって施工されたという見通をもっている。今後の資料の増加をまって改めて検討したい。

- 1 六条条間路付近の朱雀大路心と朱雀門心を結んだ振れ、同位置の朱雀大路西側溝心と羅城門位置の大路西側溝心を結んだ振れから求めた平均値
- 2 奈良市教育委員会編『平城京左京（外京）五条五坊七・十坪発掘調査概要報告』1982 P.4
- 3 奈良国立文化財研究所編『平城京左京四条四坊九坪発掘調査概報』1983
- 4 宮本長二郎「平城京」『中国の都城遺跡—日本都城制の源流を探る—』1982 P.30

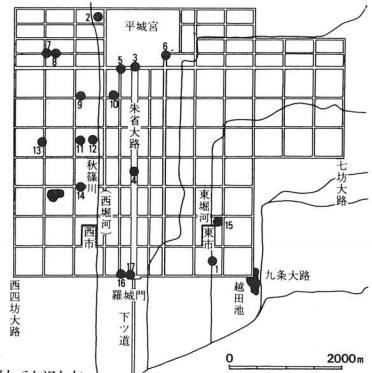


fig. 31
条坊方位計測点

	調査位置	次数	国土方眼座標		実長(m)	計画尺(尺)	単位尺(cm)	調査報告書等
			X(—)	Y(—)				
1	左九条三坊 S F2351 九条条間路心	141-23	149474.550	17185.500	—	—	—	本書
	左九条三坊 九条条間路北側溝心	141-23	149470.300	17185.700	—	—	—	
	左九条三坊 S D1300 東堀河心	141-23	149474.500	17171.600	—	—	—	
2	右一条二坊一坪二坪 坪境小路心	103-7	145103.544	19221.377	4380.245	14850	29.497	奈文研30年史 P.193
3	朱雀門々心	16	145994.500	18586.320	3486.407	11780	29.596	平城京朱雀大路発掘報告1974年P.22
4	朱雀大路心		147833.000	18577.850	—	—	—	〃
5	二条大路心	133	146025.332	18834.895	—	—	—	
6	二条々間大路心	39	145751.977	18027.326	3726.376	12600	29.574	平城京左京三条二坊1976年度P.11
7	右二条三坊十五坪 二条条間路北側溝心	123-17	145749.125	20065.000	3734.268	12630	29.567	奈文研30年史 P.193
8	右二条三坊十一坪 二条条間路南側溝心	123-17	145767.600	20021.600	3715.595	12555	29.595	〃
9	右三条二坊十三坪 三条大路北側溝心	123-5	146549.012	19640.000	2932.457	9925	29.546	〃
10	右三条一坊十二坪十三 坪三条大路北側溝心	123-2	146545.300	18987.344	2933.190	9925	29.553	〃
11	右五条二坊十四坪 五条条間路南側溝心	118-12	147357.500	19564.100	2123.623	7170	29.618	〃
12	五条条間路北側溝心	98-14	147345.500	19398.000	2134.868	7215	29.589	〃
13	五条条間路心	100	147353.135	20208.000	2135.189	7200	29.655	右京五条四坊三坪 1977年度 P.5
14	六条大路南側溝心	131-9	148165.000	19554.500	1315.894	4445 (4455)	29.604 (29.537)	奈文研30年史 P.193
15	八条条間路心	93	148807.300	17060.000	666.671	2250	29.630	平城京左京八条 三坊1976年度
16	九条大路北側溝心	125	149739.470	18795.170	261.825	875 (885)	29.923 (29.585)	平城京九条大路 1981年度 P.32
17	九条大路北側溝心		149738.850	18616.520	262.023	875 (885)	29.945 (29.607)	羅城門調査

tab. 3 条坊の方位計測座標

この表では従来の発掘成果の一部をとりあげた

道路幅員は、大路80尺(60尺)、条間路30尺、小路20尺として計算した